

大塚寛治氏の訃報

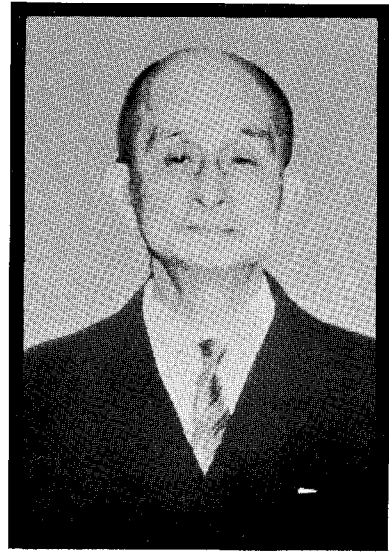
大塚奨学金として永年親しまれてきた大塚寛治氏には、昭和 58 年 1 月 5 日、享年 94 才で逝去された。

本会は、昭和 35 年 10 月、氏より、100 万円の御寄附をいただき、昭和 36 年春の評議員会において、大塚奨学金に関する内規を制定して、会員からの応募を受付けることとした。以来、多数の応募者の中から、19 名（内 4 名は昭和 54 年内地留学奨学金に変更後）の本会会員が、奨学金の支給を受けて、日本国内の研究機関に留学する機会を得ている。ここに、氏の御遺志を念じて、謹んで御冥福を祈りたい。

大塚寛治氏の略歴

明治 21 年	新潟県に生れる
明治 44 年	東京帝国大学星学科卒
大正 3 年	東京帝国大学電気工学科卒
大正 9 年	日本化学工業株式会社取締役
昭和 9 年	同 常務取締役
昭和 15 年	同 専務取締役
昭和 20 年	同 取締役社長
昭和 38 年	同 取締役会長
昭和 44 年	同 相談役

自宅は、東京都江東区亀戸 9-15-1 日本化学工業株式会社内だった。



野辺山宇宙電波波観測所留学的印象

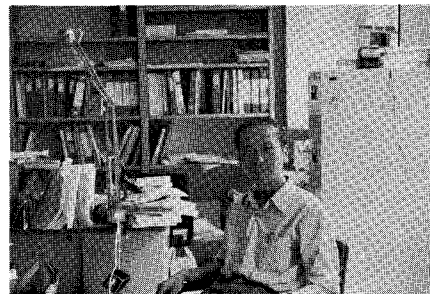
周 震 浦*

私は 1982 年夏、松前国際友好財団基金により東京天文台を訪れ、7 ヶ月にわたって滞在しました。電波天文を専攻していますので大半の時間を野辺山で過ごしました。皆さん御存じのようにここには短センチからミリ波帯で最高のレベルにある 45m 電波望遠鏡と五素子干渉計があります。私が野辺山を去るにあたって平林博士より印象を寄稿するようにすすめられましたので喜んでお引き受けした次第です。

野辺山高原には、至るところ林や牧草地があり、八ヶ岳の嶺々が地上の大アンテナに対して保護スクリーンのように立ちはだかり、絵のような美しさです。そして何よりも印象深いのは日本の友人の親切と友情でした。皆さんは生活面、仕事面でも助けて下さいました。これがなかったら何も進まなかったのではないのでしょうか？とりわけ、赤羽および森本教授、海部および出口博士は

気をつけて下さいました。これらの親切を一生わすれることは無いでしょう。

このようにすごい装置をもっていないながら、あまりにも少ない人数でやっていることは驚ろきでした。もし可能なら、もっとたくさんの人数が欲しい状態です。でもとにかく、あれだけの小人数であのように大きな装置をと



観測所の自室でくつろぐ周氏。（訳者撮影）

* 中国科学院紫金山天文台

でもうまく働らせているのは本当に驚異です。もちろん、そのために誰もが一生懸命働いておられますが、大型コンピュータのような新技術が大いに役だっていました。コンピュータは人々の労働を軽減し、装置のスピードと精度を高めています。私の学ぶべきことはたくさんありました。私たちは中国に 13.7m 口径のミリ波アンテナを 1986 年ごろに作る計画をもっているからです。

私が野辺山を去るにあたって、お別れパーティーを開いてくださいました。互いに祝福しあいました。私は美しいあの場所、野辺山とあの友人達を愛しています。再

びあそこを訪ずれたいと思います。友人達が我が国を訪問されることも期待しています。

二国の人々の友情、末長からんことを！

(私たちは7ヶ月間を野辺山でNanjinglishとJapanglishで会話をしたものです。この原稿は英文で寄せられましたので、私が日本語に翻訳しました。心のこもった美しい原文が拙ない日本語になっている可能性が充分高く、それは訳者の責任と心得ております。編集部・平林)

賛助会員名簿

(1983年3月5日現在の国会賛助会員は下記のとおりであります。ここに) (社名、代表者名を掲載させて頂いて感謝の意を表します。(五十音順))

旭光学工業株式会社	松本徹	地人書館	中田威夫
朝日新聞社科学部	木村繁	天文博物館	
アストロ光学工業株式会社	滝沢磐	五島プラネタリウム	五島昇
岩波書店	緑川享	東京電力株式会社	平岩外四
宇宙開発事業団	山内正博	東北電力株式会社	若林疆
大阪市立電気科学館	辰己博	長瀬産業株式会社	
沖電気工業株式会社	柏倉業	コダック製品事業部	田川敏
カールツァイス株式会社	波木泰雄	ナルミ商会	村上俊男
河出書房新社	清水勝	日本光学工業株式会社	小秋元隆輝
関東電気工業株式会社	関井忠夫	(社)日本測量協会	宮地政司
(株)教育社	高森圭介	(財)日本地図センター	宮地政司
国際文献印刷社	笠井康弘	日本通信機株式会社	川島穰雄
啓文堂松本印刷	松本久喬	日本特殊光学	山田坂雄
恒星社厚生閣	佐竹久	富士通株式会社	
五藤光学研究所	五藤隆一郎	システム統轄部	三 次 衛
コロンビア貿易株式会社	飛田利一	丸善株式会社	飯泉新吾
金光教本部教庁	金光鑑太郎	三鷹光器株式会社	中村義一
サンシャインプラネタリウム	堀家邦男	三菱電機株式会社	
住友信託銀行吉祥寺支店	林智雄	宇宙開発発部	野村正彦
誠文堂新光社	小川茂男	ミノルタカメラ株式会社	田嶋英雄
関商事株式会社	関 周		

1983年1月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	—, —	6	—, —	11	9, 52	16	8, 71	21	7, 53	26	8, 53
2	—, —	7	9, 70	12	9, 34	17	8, 57	22	9, 61	27	6, 58
3	—, —	8	9, 53	13	11, 49	18	—, —	23	11, 44	28	8, 85
4	7, 43	9	8, 98	14	11, 37	19	7, 81	24	8, 32	29	7, 94
5	6, 35	10	6, 55	15	11, 50	20	6, 75	25	8, 25	30	8, 109
(相対数月平均値: 142.9)										31	9, 88

昭和58年3月20日	発行人	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所	〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町251	啓文堂 松本印刷
定価 300 円	発行所	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
		電話 三鷹 31 局 (0422-31) 1359	振替口座 東京 6-13595